

地域をつなぐ春の舞

市の重要無形民俗文化財指定の薄根太々神楽は、硯田天満宮の宮守をしていた松本耕三郎が伝承した面神楽です。現在、薄根太々神楽保存会と薄根太々神楽硯田保存会の2団体が活動し、春の例大祭での奉納や芸能祭などでの公演、学校の体験学習を通して、継承保存に努めています。

薄根太々神楽 11座の物語を紹介

※番号は奉納順



1 奉幣御麻之舞
演舞に先立ち、祭主が神楽殿を清め神々をお招きする。東西南北をあがめて神々を迎える。



2 国固め之舞
天地が分かれ最初に現れた神、国常立命による天地創造の舞。太鼓に合わせて矛で天を祝福し、地を踏み固めて国土を安定させる。



3 天の浮橋之舞
男神の伊耶那岐命と女神の伊耶那美命の二神が、日本の国づくりと神創りをする。

1 奉幣御麻之舞

2 国固め之舞

3 天の浮橋之舞

【参考文献】
金井庫治『利根沼田への伝承 神職 松本耕三郎と太々神楽』,2008
薄根太々神楽硯田保存会『面白いほどよくわかる薄根の太々神楽』,2023



4 天の岩戸開き之舞
天照大御神が弟の須佐之男命の暴挙に怒り、岩屋にこもる。神々が知恵を出し合い、大御神様を岩屋から誘い出す。



5 鍛冶屋之舞
農耕や狩猟に使う農具や剣を作る様子を後世に伝える舞。



6 天狐之舞
キツネが五穀豊穡を感謝する舞。道化のひょっとこが餅を投げて、万民とともに喜び合う。



7 弓之舞
弓は武力の象徴。権威や神の力を表す舞。

4 天の岩戸開き之舞

5 鍛冶屋之舞

6 天狐之舞

7 弓之舞



8 大蛇退治之舞
須佐之男命が恐ろしい大蛇を退治し、櫛名田姫を助ける。乱世を治めることも意味する。



9 両剣之舞
須佐之男命が退治した大蛇の体から出てきた剣と自分の剣の2本で舞う。邪気を払い安穩を祈る。



10 恵比寿之舞
国譲りの交渉に来た神をもてなそうと、恵比寿の神が海の幸を取る釣りの舞。ひょっとこことタコを配し、ユニークに表現。

8 大蛇退治之舞

9 両剣之舞

10 恵比寿之舞



11 猿田彦之舞
天孫降臨の道案内神、猿田彦の舞。猿田彦神社は伊勢神宮の前に鎮座している。

11 猿田彦之舞



46歳頃の松本耕三郎(提供:金井庫治氏)。明治末期、大類村柴崎(現・高崎市柴崎町)出身で、薄根村恩田で巡査をしていた。退職後、硯田天満宮の宮守になり、地域の青年たちに神楽を教えていた。

薄根太々神楽は、笛や太鼓に合わせて五穀豊穡を祈り、感謝する舞です。天地創造から天孫降臨まで11座で構成され、「国固め之舞」といった格調ある式舞と、「恵比寿之舞」などの興舞を持つのが特徴です。笛と太鼓は場面に応じて13曲を使い分けて演奏。全部で26神が登場し、制作したお面の数は約15面です。神楽奉納は、薄根太々神楽保存会は4月29日に三峰山河内神社で、薄根太々神楽硯田保存会は3月最終日曜日に菅原神社(硯田町)で行っています。天照大神の厳かな雰囲気な舞、大蛇に飲み込まれる悲壮感や恐怖を演じる姫、タコ入道とひょっとここと滑稽な掛け合いなど、全演目を約3時間かけて公演します。舞の途中には福餅を投げ、観客は手を伸ばして取ろうと競い合っ盛りがります。境内にはフリーマーケットも出店してにぎわいます。

コロナ禍においても、時間を短縮し3演目程度を奉納しています。神様の喜びは、笑顔で幸せな人々を見ること。太々神楽は神様の望みにかなったもてなしを、地域に広げていきます。

